

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 中間評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1	前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価項目の8割で、最終評価が十分達成となった。各領域の重点目標に向かって、全職員が一丸となって年間取り組んだ成果である。</li> <li>・校内研究で提案授業や研修を行い、職員間でICT活用及び指導法の情報共有ができた。スキルアップタイムでICT活用の時間を全校で共通して取り組んだことで、児童の情報活用能力が向上した。令和7年度は、学力向上に向けた効果的なICTの活用に向けて、児童のスキルアップタイムや職員の実態に応じた研修を設定するなど、教職員の指導力向上と児童の学力向上につながる教育実践を積み上げていきたい。</li> <li>・時間外の音声ガイダンス電話設定やアプリによる欠席連絡の徹底、教職員の意識改革により、職員平均の時間外在校時間が前年度比マイナスとなった。令和7年度以降も継続できるよう、業務の効率化を進めていく。</li> <li>・いじめや児童間のトラブルなど、担任及び生徒指導主任等、組織で早期対応を行い、重大事案となることはなかった。今後も、全教職員で児童の心身の状況を観察・把握に努め、児童や保護者が安心して学校に通える・通わせることができるようにしていく。</li> </ul>
2	学校教育目標	「心豊かで たくましく 共に学ぶ 児童の育成 ～ふるさと中原で共に生きる風の子～」
3	本年度の重点目標	<p>◎学び合う力、つながり合う心、高め合う生活の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人に役割をもたせ、出番を与え、認め、励ます教育活動の推進</li> <li>・「優しい心」や「強い心」を育む教育活動の推進</li> </ul>

4	重点取組内容・成果指標	中間評価	5	最終評価	主な担当者
---	-------------	------	---	------	-------

(1)共通評価項目						主な担当者		
重点取組			中間評価		最終評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)		実施結果	
●学力の向上	○児童が主体的に学習できる環境や学習過程の充実	○校内研究に能動的に参加し、教師全員が効果的なICT活用を考えた授業に臨むことができる。	B	・授業者の「課題に感じたところ」「見どころ」意見が欲しいところなどを視点にして、教師全員が授業公開をする。 ・教職員の実態に応じたICT研修を計画し、ICT活用能力を高める。	B	・職員同士の提案授業を行ったことで、ICT技能の向上は図れていた。また個別最適な学び、協働的な学びの実践も数多く見られた。一方、全職員の授業公開を目標として取り組んできたが、70%の実施にとどまった。全職員が取り組める環境づくりに努めた。	○まなび部 ・学力向上コーディネーター ・研究主任	
	○学習規律の徹底	○「学習のきまり」「休み時間の過ごし方」(か・つ・お・す・き)について「守れている」と肯定的な回答をした児童80%以上達成。	B	・「学習のきまり」では、学年間で取り組みに差が見られるため、学年の実態に応じて声掛けをしていく必要がある。 ・休み時間の過ごし方アンケート(1学期末)の結果では、全体的に「だいたいできている」という結果だったが、引き続き、学年ごとの取り組み状況を簡単に報告し合うなどして、今後「できている」を増やしていく。	A	・アンケートの結果、「休み時間の過ごし方」(か・つ・お・す・き)すべての項目でできている。だいたいできているが90%を超えており、定着が図られてきていることが分かるが、「できている」の解答だけ見ると「か」以外は60%台に留まっている。今後、全体・学年間の共通理解を密にすることで、さらに落ち着いた態度で学習に向かうことができると考える。	・児童の自己評価も高く、学習規律はおおむね定着していることが分かる。学習規律の徹底は、学力向上を図る上で非常に重要である。今後も継続して取り組んでいってほしい。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○Q-Uの結果を学級づくりに活用し、「友達に思いやりの気持ちをもって、勉強したり遊んだりする」と答えた児童80%以上にする。 ○「丁寧な言葉遣いで話していますか」についてのめあてを達成した児童85%以上達成。	B	・「自他を認め尊重する態度を育てるために、年3回「光るところみつけ」を実施する。 ・「丁寧な言葉づかい」を生活のめあての年間重点目標として設定し、毎月実施する「心のアンケート」で、自身の言葉遣いを振り返らせる。	A	・「光るところみつけ」を行い、書いたカードを模造紙にまとめ廊下に掲示した。給食時間に放送で内容を紹介することで児童の自己肯定感を高めることができた。 ・毎月「心のアンケート」を実施することができた。また、生活朝会の際には「言葉遣い」についての話し合いを行い、児童が意識できるようにした。	・「友達に思いやりの気持ちをもって、勉強したり遊んだりしていませんか」という問いに対して、肯定的に回答した児童の割合は96.1%と、非常に高い結果となった。これは、道徳の学習や「光るところみつけ」などの取組の成果が表れているものと考えられる。言葉遣いについても、児童の肯定的な回答が多く見られた。丁寧な言葉遣いは、相手を尊重する姿勢の表れでもある。学校だけでなく、家庭や地域が一体となって指導していくことが重要である。	○こころ部 ・道徳主任 ・教育相談担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員85%以上	B	・毎月「こころのアンケート」を実施し、児童の心の状態を把握し、いじめの早期発見に努める。記載内容には全て対応し、早期解決を図り管理職への報告を行う。 ・「いじめの避難訓練」を実施する。	A	・「心のアンケート」に記入があった児童については、すぐに担任から聞き取りと指導を行い、早期に対応ができていた。 ・7月に「いじめ防止対策委員会」を開き、全校で起きた事案について、職員全体で情報共有し、対応を確認した。	・いじめの未然防止や早期発見、組織的対応にしっかりと取り組んでいることが、アンケート結果からも確認できる。 ・近年は、SNSを介したいじめも増えているとされている。道徳科などの学習を通して、言葉の伝え方や発信の仕方について考えさせる機会を設けることも重要である。また、毎月の心のアンケートに加え、いじめ相談箱の設置など、児童がいつでも気軽に相談できる環境づくりに取り組んでいってほしい。	○こころ部 ・生徒指導主任
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「学習活動や各種行事において、自分で考え自分で決めた目標に向かって頑張った」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	B	・学習活動や各種行事に対する自分自身の取り組み方や成果について振り返らせ、称賛することで児童の自己肯定感や自己有用感を高める。 ・夢授業や夢先生の学習を通して、将来の夢や目標について考える機会をもたせる。	A	・「学習活動や各種行事において、自分で考え自分で決めた目標に向かって頑張った」、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒はどちらも80%を上回ることで、自分の成長を見つめることができ、自己肯定感を高めることができた。 ・夢授業へ向けて、打合せをしている段階である。将来の夢や目標をじっくり考えることができる機会になるよう、計画していきたい。	・ともに数値目標を達成しており、児童アンケートの結果からも自己肯定感の高まりが感じられる。特に、高学年で実施した「夢の授業」や「夢検定」は、児童の将来につながる効果的な取組であり、来年度以降も継続してほしい。 ・不登校傾向のある児童への支援については、担任一人抱え込むのではなく、より多くの関係者が関わることが重要である。今後も、担任をはじめ、養護教諭、教育相談担当、スクールカウンセラーなどが連携しながら、継続的に支援にあたってほしい。	○まなび部 ・キャリア教育担当
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	○防犯ブザー所持率90%以上達成 ○児童の交通事故0件達成	B	・毎学期、防犯ブザーの所持の確認を行う。 ・交通安全指導、登下校指導を通して、児童の交通安全への意識を高める。	B	・防犯ブザーの所持率は86%であったため、引き続き呼びかけ等を行う必要がある。 ・交通事故は0件ではなかったが、その都度該当児童だけでなく、全校での指導を行ってきたので全体の安全意識は高まっていると思われる。	・防犯ブザーの所持率は82%だった。経年劣化を考慮した呼びかけが必要だと思われる。 ・年度後半は交通事故件数が0件であった。日頃の呼びかけや指導で安全意識がさらに向上したためと思われる。	○からだ部 ・安全指導主任
	○体力向上の具体的実践	○県が主催するスポーツチャレンジへの参加学級数、参加種目数を増やす。	B	・体育の学習やクラブ活動でスポーツチャレンジに積極的に取り組み、学校での取り組み数50種目を目標とする。	B	・呼びかけ等の効果もあり、縄跳びを中心に挑戦した学級が増えた。スポーツチャレンジをするという意識があまりなかったようでの、啓発を通して報告数を伸ばしていきたい。	・体育の授業のはじめの5分間などに取り組むことができそうである。他校の記録を目標に競い合うこともでき、楽しみながら継続することが体力向上にもつながる。今後、職員への啓発をお願いしたい。	○からだ部 ・体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間、年間360時間)を遵守し、勤務時間を意識した働き方を定着させる。	B	・年度途中でも必要があれば業務を平準化する。 ・データの共有化や資料の整理整頓を進め、業務の効率を上げる。 ・見直しをもって計画的に業務を遂行するために「校務シェアボード」を活用する。	B	・月45時間以上の時間外在校等時間が6か月を超えた職員の割合は12.5%、年間360時間を超えた職員の割合は35%と依然として高い状況であった。一方で、出退勤時刻を意図して働いていると回答した職員の割合は87.1%と高く、勤務時間を意識した働き方改革が着実に進んでいることがうかがえる。	・教職員アンケートの結果から、職員の働き方に対する意識の変化が見て取れる。教職員の健康は学校全体の活力にも直結する重要な要素である。来年度からは時間割の見直しにより児童の下校時刻が早くなることで、時間外在校時間の減少が期待される。	・教頭
●特別支援教育の充実	○発達障害への理解と個別支援の計画的推進	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上	B	・児童理解についての生徒指導連絡会を月3回実施し、情報共有を行う。 ・特別支援教育に関する実践力を高める研修を年3回行う。	A	・生徒指導連絡会や各種研修により、特別支援教育に関する専門性が向上したと回答している教員は、93.5%であった。 ・今後も、生徒指導連絡会を定期的に行い、児童について学校全体で共通理解を図りながら、児童に適切な支援ができるようにしていきたい。	・昨年度は達成率100%であったが、今年度は若干低下している。毎年、初めて特別支援学級を担任する教師もいることから、特別支援学級担任を中心に全職員が一体となって研修に励み、特別支援教育の充実に取り組んでいってほしい。	・特別支援教育コーディネーター

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目						主な担当者		
重点取組			中間評価		最終評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)		実施結果	
○地域連携	◎コミュニティ・スクールの推進	◎各学年で2回以上、地域と連携した学習活動に取り組む。	A	・各学年、年間教育計画を基に、地域連携学習活動を予定通り行うことができている。 ・定期的に学校運営協議会を開催し、学校運営及び地域連携について報告・協議を行うことができている。	A	・各学年において、各教科との関連を図りながら地域と連携した学習活動を実施することができた。 ・計画的に学校運営協議会を開催し、意見交換を重ねることで、学校と地域とが共通の目標をもって教育活動に取り組むことができた。	・中原小学校は、地域と連携した学習や行事に非常に積極的に取り組んでいる。地域連携学習がさらに充実するよう、今後も学校との連携を一層深めていきたい。	・教頭 ・教務主任

5	総合評価・ 次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間評価ではA評価が1項目のみであったが、最終評価では6項目に増え、保護者アンケートや外部評価においても学校教育活動に対して高い評価を得ることができた。これは、全職員が学校教育目標を念頭に置き、児童に寄り添うことを第一に考えて日々の教育活動に取り組んできた成果であると考えられる。</li> <li>・「安全に気を付けて生活している」と自己評価した児童は96%に達したものの、実際の行動を見ると必ずしもそうでない場面が見られた。また、防犯ブザーの所持率も82%にとどまり、日常生活における安全意識をさらに高める必要があることが分かった。学校での取組内容を精査するとともに、保護者と情報を共有し、理解と協力を得ながら目標達成を目指していく必要がある。</li> <li>・今年度の重点目標である「一人一人に役割をもたせ、出番を与え、認め、励ます教育活動の推進」をこれまで以上に意識し、自分で考え自分で決める機会を、さまざまな支援・指導場面に取り入れていくことで、児童の当事者意識や主体性を一層育んでいく。</li> </ul>
---	------------------	---